Y I A 会員だより　2025 年 7 月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第 247 号　ホームページ URL　https://yia2020.net/

【7 月以降の活動予定他】

◎**日本語スピーチコンテスト**

日時：7 月 13 日（日）13:00～16:00

場所：山川公民館

◎**徳島県日本語弁論大会**

日時：7 月 20 日（日）13:00～17:00

場所：あわぎんホール(徳島市内)

◎**外国人お遍路ガイド**

第 28 回：7 月 7 日（月）　10:00～11:30

第 29 回：7 月 26 日（土）　13:00～14:30

場所：文化研修センター

◎**第 4 回理事会**

日時：7 月 26 日（土）16:00～

場所：文化研修センター研修室 4

◎**国際交流クッキング「そば打ち体験」**

講師：「阿波の恵みの会」田村精二さん

日時：8 月 3 日（日）　13:00～11:30

場所：川島公民館　調理室・和室

◎**鴨島阿波踊り**

日時：8 月 16 日（土）　17:00～

場所：鴨島駅前通り

◆YIA 総会記念講演

日本遺産「藍のふるさと阿波」

～吉野川市の構成文化財とストーリー～　羽山 知恵子

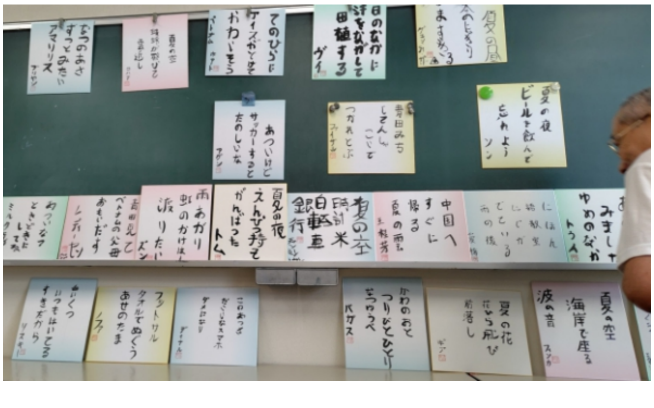
2025 年度吉野川市国際交流協会総会が 5 月 17 日に文化研修センターで開催され、吉野川市教育委員会生涯学習課長補佐の大島祥人氏より“日本遺産「藍のふるさと阿波」～吉野川市の構成文化財とストーリー～”と題して記念講演をしていただきました。大島氏の幅広い学識に触れ、藍のふるさと阿波の歴史的ルーツに旅する思いでありました。

講演の概要を以下に紹介します。

阿波藍とは何でしょうか。「藍」は古くから日本人の生活に関わり indigo blue、Japan Blue と世界より注目されてきました。その昔中国から蓼藍の栽培や染色方法が伝えられ、吉野川流域の肥沃な土地に藍が栽培され阿波藍は品質のよい染料として高く評価されました。その歴史は古く、江戸時代から明治時代にかけて日本一の産地でありました。多くの藍商も生まれ、川真田市太郎、川真田徳三郎、須見徳平、須見千次郎、石原六郎、麻植松太郎、工藤源助、工藤馬吉、工藤和喜太、工藤半平等々が郷土繁栄のために多くの事業に貢献し、今も残る藍屋敷や藍関連文化財群等があります。鴨島駅前中心市街地の大多数の土地は、川真田市太郎（本カネマン）、川真田徳三郎（北カネマン）が所有し、鴨島の藍屋敷の他に徳島市船場にも進出し繁栄を続けました。本カネマンの藍屋敷跡地は現在県内最大級の吉野川市アリーナ、吉野川市民プラザとなっています。2019 年 5 月文化庁の「日本遺産」に山川町藍屋敷、工藤家屋敷、工藤家住宅を中心とした藍関連文化財群（西麻植八幡神社、狛犬等）が認定されました。西麻植駅はその昔工藤源助、工藤馬吉が尽力して誘致し、工藤鷹助（馬吉の子息）が県民の憩いの場として所有地 2 万坪や私財を投じ、1931 年に「江川遊園地（現・吉野川医療センター）」を創設しました。その中に全国名水百選に指定された「江川の涌水」があります。

藍のふるさと阿波、吉野川市は大地の豊かな恵みにより先達による悠久の歴史を刻み至る所にその宝が保存されていることに気づかされた記念講演でありました。

◆俳句・書道ワークショップ　川村 雅子



6月22日、午前の日本語教室を終えたその足で、実習生のみんなとワークショップに参加しました。ビックリしたことに、なんと約50人もの参加者が集まりました。今回は、山川・鴨島・阿波の3つの日本語教室から生徒さんたちが参加されたとのことです。

はじめに俳人の上窪先生から俳句の作り方の説明を受け、それから二つの教室に分かれて実際に俳句を作り、書道講師の吉野先生の指導を受けながら色紙に筆で俳句を書き入れ、作品を仕上げました。

はじめの説明は一つの教室で行ったため、大盛況で大混雑といった状況でしたが、それぞれの教室に分かれてからは、外国人の参加者に日本人がアドバイスをする形でスムーズに進みました。外国人参加者はそれぞれ、考え込んだり、携帯で漢字を調べたり、指を折って文字数を確認したりしながら、のびのびとした俳句を作っていました。そして何度も半紙で練習をしてから、緊張の面持ちで本番の色紙に取り掛かりました。漢字を間違えたり、スペースが狭くなったりしたのもご愛敬。個性的な作品ができあがり、最後にみんなの句を先生が読み上げて、お互いの句を鑑賞しました。

作品を鑑賞する参加者

◆第８回　グローバルセミナー　　　　瀬尾 規子

6月28日に第8回グローバルセミナーを開催しました。三好市のALTのミエ・オカ・ランプリエールさんに「ルーツへの回帰～祖母の足跡を辿る～」というテーマでお話していただきました。吉野川市のほか三好市などからも参加者があり、計22名が集まりました。

ミエさんは、アメリカのバーモント州出身で、2022年に南カリフォルニアのピッツァー大学で、移民とグローバリゼーションを専攻しました。高祖母は徳島生まれで、曾祖母が徳島を去ってから1世紀以上が経ち、ミエさんは徳島に戻ってきました。フランス人の父と日本人の母は1990年代に東京で出会いました。父は新聞記者で母はNHKの記者でした。その後、両親はニューヨークに移住し、ミエさんはアメリカで生まれました。ニューヨークに住んでいた頃、9.11のアメリカ同時多発テロが起きました。アメリカでは、中東出身者に対する憎悪が高まっていき、ミエさんの世界観が変わっていきました。6歳の時、メキシコに引っ越しました。メキシコでは、新しい言語と文化の中で、最初は途方に暮れましたが、3年の間に新しい友だちができ、メキシコは新しい故郷になりました。その後、フランスに移住しました。自分はフランス人と思っていても、周りはミエさんをフランス人として見てくれず、「私は一体どこから来て、どこに属しているのだろう」と思うようになり、異なる文化を持つ人々と繋がり、共通点を見つけたいという情熱が高まりました。2019年にアフリカのチャド自由基金協会でインターンシップを行いました。そこで紛争で故郷を追われた難民に会い、会話を通して、国は違っても、お互いにそれほど違いがないことに気づきました。これらの経験により、日本に移住する決断をし、地域の人たちや日本の友人たちと交流して、文化の架け橋になっています。

ミエさんは、最後に「皆さんも、ぜひ架け橋になってください。架け橋をかける時、お互いの理解と尊厳が深まり、平和が生まれます」と締めくくりました。

ミエさんと参加者